チーム港南　港南家族

令和元年５月２２日

港南中便り

第５号

学校公式ホームページ　https://konan-j.esnet.ed.jp/

初夏　港南中生の活躍

５月２９日（水）の全校朝会で、次の生徒たちの表彰伝達を行います。（５月２１日現在）

＜　卓球部　男子　＞

○新居浜卓球協会創立５０周年記念近県選抜中学生卓球大会　男子団体の部　**準優勝**
○中学生オープン大洲卓球大会　男子団体上位トーナメント　**準優勝**
○西条市長杯争奪卓球大会　中学男子団体　**第３位**
　中学男子個人　**第３位**　３年　男子
○愛媛県中学選抜強化卓球大会　男子シングルス　**第２位**　３年　男子

＜　卓球部　女子　＞

○中学生オープン大洲卓球大会　女子団体上位トーナメント　**準優勝**
○西条市長杯争奪卓球大会　中学女子団体　**準優勝**
　中学女子個人　**優　勝**　1年　女子
　準優勝　1年　女子
　第３位　３年　女子
○愛媛県中学選抜強化卓球大会女子シングルス　**第３位**　1年　女子
　第３位　1年　女子

＜　ソフトテニス部　男子　＞

○松山･中予地区春季ソフトテニス大会　団体港南Bチーム Bクラス　**準優勝**
　男子1部　**第３位**　３年　男子･男子
　男子４部　**準優勝**　２年　男子･男子
　男子５部　**第３位**　２年　男子･男子

＜　ソフトテニス部　女子　＞

○松山･中予地区春季ソフトテニス大会　女子３部　**準優勝**　３年　女子･女子
　女子６部　**準優勝**　２年　女子･砥部中生

＜　バレーボール部　男子　＞

○愛媛県中学生バレーボール選手権大会　**準優勝**

＜　個人参加　＞

○小･中学生テニス選手権春季大会中学生女子ダブルス　**第１位**　２年　女子･３年　女子
○四国中学生テニス選手権中学生女子ダブルス　**第４位**　２年　女子･３年　女子

★日本英語検定協会より、港南中学校に「奨励賞」をいただきました。

次の3名の先生方は、週に一度　本校で勤務しています。

スクールカウンセラー	初任者指導員	教育相談員
月曜日　原則午後 谷口　明美 先生	原則　火曜日1日 浅山　貢 先生	原則　金曜日1日 忽那　仁美 先生

社会性と「じりつ」する力

「ここは中学校です。小学校は子どもの学校、中学校は大人の学校。・・・・・・じゃないけれども、大人になる学校です。だから子どもの学校では、いいと言われたことでも、中学校では、だめって、いうことがあるんです。それは中学校の先生が意地悪なのではなくて、大人になってやって悪いことはやめていかないと困るので、そこが大変ちがう。とにかく、国語の時間としては、私の言うことはいっぺんで聞きなさい。分からなければ二度でも三度でも言うけれど、お詫びをしなければ言わない。大人は聞き損なったりすると、「恐れ入りますがどんなお話でしたか？」と、そういうふうに言って謝らなければ聞けない。（中略）そんなふうにして大人の意識、ここは小学校とは違ったところであって、大人になるための学校で、もう子どもではないのだということを、そういう形で最初に子どもの胸に入れました。」

これは、戦後を代表する国語教員である大村はま（1906年～2005年）さんの**「教えることの復権（ちくま新書）」**の中にある言葉です。

この言葉のとおり、小学校は「子どもの学校」なのに対して、中学校は**「大人になるための学校」**です。大人になるといっても、ただ体が大人になるのではなく、**「社会性」と『じりつ』する力**を身に付けた大人に成長できるように教育を行っているのが**「中学校」**です。

皆さんも御存知のとおり、中学校を卒業した後の進路は、生徒自身が決めるものです。そのためには、**社会性と二つの「じりつ」＝自律と自立　する力が必要です。**なぜなら、中学校卒業後の進路を自分が決めたからといって、その進路に進めるのかといえば、そうでもありません。例えば、ある高校への進学を決めても、その高校へ入学するには、**その高校が求める成績**があります。また、就職するにしても、**時間や礼儀、ルールを守る力**が求められます。ですから、中学校では、生徒が卒業後の社会で認められ、通用できる**社会性と「じりつ」する力を身に付ける**必要があります。だから、小学校とは違った「**厳しさ**」があります。

□■社会性と自律→自立する力を身に付ける□■

社会性として中学校では、頭髪、服装、目上の人に対する言葉遣いやけじめのある態度など、小学校以上に指導しています。特に、部活動での礼儀や態度の指導は、厳しいものがあります。また、**「じりつ」する力**を身に付けさせるために、多くのことを、生徒本人に任せたり、やらせたりしています。**私たち人間は、「自律」があって、「自立」していくのです。**「自律」とは自分で自分の未来をつくる力です。人間は、その力を身に付けて、「自立」した人生を生きていけるのです。今、社会は、めまぐるしく変化し続けています。その社会では、自律し続ける必要があります。教員や親から言われて準備や勉強するのではなく、自分で未来をつくるために行動できるように教育する必要があります。

□■多様な立場の大人の関わりで育てる□■

子どものよき成長には、**「多様な立場の大人の関わり」**が必要です。保護者は、肉親という立場からの関わりです。これは**成長のホームベース**です。ただ、成長にともない肉親以外の、**他人の大人との関わり**も必要です。中学校は、学級担任、教科担任、部活動担当など、何人もの教職員が、多様な立場の大人として成長に関わっていきます。**立場が違えば、関わり方にも違いがあります。しかし、方法は違っても目指す「社会性と『じりつ』する力」を育てるという目的は同じです。港南中の教職員全員が、保護者の方とは「違う立場の大人」としての役割**を果たし、お子さんのよき成長に関わっていきます。